研究主題　「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

研究副主題　～見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び～

北海道社会科教育連盟研究部長　河原 秀樹（北海道教育大学附属札幌小学校）

2019～2022年度までの４か年研究では、社会的事象を創出する人物の営みを教材化し、子どもたちの理解の質を高め、確かな社会認識を育む学びを積み重ねてきました。令和４年 10 月に行われた全国小学校社会科研究協議会研究大会北海道大会においても、私たち北海道社会科教育連盟の諸先輩方が脈々と受け継いできた、発想の転換を生かした教材化や、「～のはずなのに、なぜ？」という問いが生まれる学びを通して、大きな成果を上げたところです。

2023 年度からの新３か年研究を進めるにあたり、研究部ではこれまでの研究成果を更に深化させていきたいと考えました。

一方で、新３か年研究で新たに焦点を当てていく部分はどこかについて検討してまいりました。そこから見えてきたことは、社会認識にとどまらず、社会参画につながる新たな価値を創造する子どもの学びの姿を明らかにしたい、ということです。

VUCA の時代と呼ばれ、将来の変化を予測することが困難な時代の中に、子どもたちは生きています。そのような子どもたちに、「多様な他者の価値に触れ、自分の価値を創り変えられるようになってほしい」「価値を創造する人物の営み（社会的事象）を通して、確かな社会認識を育んでほしい」「持続可能な社会のために、未来を志向し、新たな価値を創造する子になってほしい」と願い、研究主題の子ども像と研究副主題の授業像を設定いたしました。

併せて、研究主題と研究副主題に迫るための手立てⅠ～Ⅲ、そして研究の土台としての手立てについても示しています。

手立てⅠ
子どもと社会がつながる教材化と単元デザイン
〈具体的な手立ての例〉
- 教材化の視点（社会認識と社会参画の視点）
- **教材分析と見方・考え方のつながりの視覚化**
- 主体的な追究を可能にする単元の学習問題と活動目的、**問いの設定**
- 単元の学習過程の工夫
- 子どもと社会的事象の距離を近付ける手立て
- 人物との出会いを通して教材と子どもをつなぐ工夫
- 体験的な活動や具体物の工夫

手立てⅡ
社会認識を深めるための一時間
〈具体的な手立ての例〉
- 人物の営みを通して**社会的事象の意味を考える**本時場面の設定
- 単元で身に付けた知識がつながる本時場面の設定
- 一人一台端末活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の中で社会認識を深める工夫

手立てⅢ
社会参画につながる新たな価値を創造する一時間
〈具体的な手立ての例〉
- 単元の学びが活用される活動の工夫
- **価値創造につながる新たな問い**が生まれる手立て
- 社会との関わり方について**選択・判断する**活動
- 社会の発展について**多面的・多角的に考える**活動
- 社会に見られる課題の解決に向けて**議論する**活動

研究の土台
他者を価値ある存在として受け止める学級経営や教科経営による集団づくり
〈具体的な手立ての例〉
- 学び方としての知識
- 自分のよさや可能性への気付きから自己肯定感や、自己有用感を高める学び方

令和５年 11 月 24 日（金）に開催される札幌大会は、３か年研究の１年目です。札幌地区の７本の授業や全道各地区からの責任提案を通して、研究主題に迫る子どもの姿を明らかにするとともに、研究副主題に迫る授業とその手立てについて皆さんで議論し、北海道の社会科教育を盛り上げていきたいと考えています。